

---

## **5 令和7年度中間評価（案）について**

# 5.1 令和7年度計画目標の進捗状況評価（中間）（案）

## 目標1 都市活動を支え、都市構造を誘導する効率的な公共交通体系の構築

R7取組状況	課題	今後の展開	
施策1 中南部都市圏の骨格軸を形成する基幹バスシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転手不足の見通し等を踏まえ、国道58号を中心としたバス路線への影響や効率化の可能性等を検討</li> <li>バスレーン延長に向け、協力型バスレーンの実証実験の実施内容について検討を開始</li> <li>乗降方法の検討は、過年度に引き続きバス事業者との勉強会の中で議論</li> <li>西普天間交通対策は、関係機関とのW Tで必要な交通対策について検討・調整等を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通結節点の整備動向等も踏まえながら、関係機関と継続的に取組むことが課題</li> <li>自動車交通量の低減・分散等に向けた総合的な施策の取組が課題</li> <li>乗降方法の検討は、バス事業者の理解と協力を得るための継続的な勉強会の開催が重要</li> <li>琉大病院移転後の交通状況を踏まえ、必要な交通対策を着実に進めることが重要</li> </ul>	
施策2 沖縄都市モルールの利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>モルール3両化はこれまでに4編成導入済</li> <li>中部方面からの路線バス利便性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕ラッシュ時間帯の混雑緩和が課題</li> <li>てだこ浦西駅と西普天間を結ぶバス路線運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3両化車両を計画的に導入予定</li> <li>てだこ浦西駅の結節機能拡充の検討</li> </ul>
施策3 拠点都市を中心とした都市内公共交通体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点都市を中心とした効率的な交通網体系の検討</li> <li>胡屋、名護の交通結節点整備は、整備方針の検討に着手、引き続き調査を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通結節点整備、効率的な網体系、周辺まちづくり等の相互連携が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域ネットワークイメージ具体化に向け、圏域分科会で引き続き議論。結節点は、引き続き関係者と連携を図り早期事業化を目指す</li> </ul>
施策4 東海岸地域における円滑な公共交通体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な公共交通体系は、施策6と連携して検討中</li> <li>マリンタウンMICEエリアの核となる大型MICE施設、隣接する交通ターミナルの整備に向けた取組を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通サービスや交通結節機能の構築に向けてマリンタウンMICEエリアの形成を進めることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、魅力あるエリアの形成に向けて検討するとともに、関係機関との連携を図る。</li> </ul>
施策5 高速バスの拡充及び利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>JUNGLIA開業に伴う高速バスの新規運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速バス停周辺環境整備等に向けた取組が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、施策の検討推進を期待</li> </ul>
施策6 各圏域での隣接市町村や拠点都市を結ぶ公共交通サービスのあり方検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域のネットワークイメージ具体化のため、関係市町村や交通事業者との個別ヒアリングを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転手不足や路線バスの確保・維持などの視点を踏まえ検討することが課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域のネットワークイメージ具体化に向け、引き続き議論を進める</li> </ul>

# 5.1 令和7年度計画目標の進捗状況評価（中間）（案）

## 目標2 県民全ての安全・安心で健康的な暮らしを支える交通環境の創出

R7取組状況	課題	今後の展開	
施策7 小中学校への歩く通学環境の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーン30区域の道路管理者に対して物理的デバイス等設置の働きかけ実施等、通学路の交通安全施設整備を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎交通に関しては、マイカー送迎に依存しない行動変容が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通過交通の流入回避に向けた<b>生活道路の交通安全対策</b>について取組を進める予定</li> </ul>
施策8 高校通学の需要・ニーズ把握と支援事業の継続・拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民税所得割非課税世帯、児童扶養手当等受給世帯の高校生等を対象にバス・モルール通学費の無料化を実施</li> <li><b>県立高校通信制課程の生徒へのアンケート調査を実施</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の入学後、通学費の速やかな支援</li> <li>アンケート調査の結果、<b>支援が必要な生徒が一定数いることを把握</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きインターネットでの申請ができるよう取り組むとともに、<b>新たな周知方法を検討</b></li> <li><b>通信制高校への支援拡充の検討</b></li> </ul>
施策9 大学におけるキャンパスバスシステム等の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球大学のキャンパスMaaSの実装に向けた取組を実施</li> <li>西普天間への新規バス路線は運行を開始しているが、<b>路線の拡充について検討中</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インセンティブや原資確保が課題</li> <li>病院移転後の交通状況のほか、運転手等のリソースを踏まえた検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策19と連携した取り組みが重要</li> <li><b>バス事業者等と調整を続ける</b></li> </ul>
施策10 高齢者・障がい者等への移動支援策等の検討・拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納者の運賃割引や高齢者等無料化等の取組を一部自治体で実施中。またバリアフリー対策として<b>低床バス導入やエスコートゾーンを設置</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納優遇措置や運賃低減の拡充が課題</li> <li>低床バスの導入拡大</li> <li>バリアフリー対策の設置できる箇所に制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納支援制度拡充や運賃低減に向けた取組を促進</li> <li><b>引き続き低床バスやバリアフリー対策を推進</b></li> </ul>
施策11 自助や共創等による持続可能な地域公共交通サービスの検討・拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村においてコミバスやデマンド交通に加え、<b>カーシェアリング</b>、病院、商業施設等による送迎交通等が運行中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな地域公共交通サービスについて、<b>多様な部門との連携強化や持続可能な運営</b>が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>引き続き地域の公共交通協議会等での議論や関係部署との連携強化を図る。</b></li> </ul>
施策12 各市町村中心部・中心地における交通まちづくりの重点的な検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域拠点や交通結節点に関する勉強会を実施</li> <li>市町村<b>地域公共交通計画</b>は、R7年度時点で<b>15市町村</b>で策定済、<b>9市町村</b>で策定検討予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体それぞれで<b>地域拠点や交通まちづくりのあり方から議論することが重要</b></li> <li>自治体内の人材、財源不足等も課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体との勉強会等を引き続き実施</li> <li>地域公共交通計画等交通まちづくりに向けた取組を進めていく</li> </ul>
施策13 交通まちづくりにあわせた安全で快適な歩行環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>胡屋周辺や名護漁港エリアで<b>交通結節点と一体的なまちづくり</b>を検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>構想・計画の具体化</b>に向けた取組が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降も<b>継続的に取組予定</b></li> </ul>

# 5.1 令和7年度計画目標の進捗状況評価（中間）（案）

## 目標3

### 誰もが快適に沖縄観光を楽しめる交通体系の構築

R7取組状況	課題	今後の展開
施策14 那覇空港の公共交通結節機能の拡充	<ul style="list-style-type: none"><li>那覇空港、石垣空港、宮古空港に設置したデジタルサイネージを活用し、観光・交通情報等を発信するモデル的取組を引き続き実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>那覇空港のバス乗り場がわかりにくいため、わかりやすいバス乗り場への再編が課題</li></ul>
施策15 空港・港湾・観光拠点エリアを結ぶ公共交通の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"><li>観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」の実証事業において、北谷ゲートウェイ主要観光地（ヤングリア沖縄経由美ら海水族館行き）を接続する直行バスの運行</li><li>北谷ゲートウェイを起点としたアメリカンビレッジを周遊するバスの運行</li><li>平良港や本部港などにおいて、循環バスを運行の実証を行った。</li><li>シャトルバスなどの案内人の設置、マナー啓発の動画を放映</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>実証事業終了後の事業展開について、北谷町と協議を重ねるとともに、関係者等と調整を図る必要がある。</li><li>実証事業終了の事業展開については、船社や港湾管理者も含めた協議が必要となるため、関係者等と調整を図る</li></ul>
施策16 各観光地域への移動が可能な観光2次交通結節点の設置	<ul style="list-style-type: none"><li>令和6年7月25日より、観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」の設置、ゲートウェイと主要観光地を接続する直行バス、美浜エリア周遊バス等を含めた実証事業を継続実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>北谷ゲートウェイと観光拠点との接続・連携を強化していく必要がある。また、取組の周知を強化していく必要がある</li></ul>
施策17 観光まちづくりを踏まえた周遊型交通システム導入の検討	<ul style="list-style-type: none"><li>取組なし</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>取組が進められていない</li></ul>

# 5.1 令和7年度計画目標の進捗状況評価（中間）（案）

## 目標4 地域・事業者・行政等が一体で取り組む、持続可能な交通社会の実現

R7取組状況	課題	今後の展開
施策18 地域自らの政策と資源が総動員された取組  ・ 県民モニターによる <b>バス・モルール半額実証事業を実施し、通勤利用等のバス利用促進を含めた調査分析を実施</b>	・ 今後の行動変容に繋げていくための <b>新たな施策として次なる展開の検討</b> が課題	・ <b>バス・モルール半額実証</b> 事業の効果検証結果等を踏まえながら、 <b>新たな施策の展開を検討</b>
施策19 小中学校、高校、大学における送迎交通、マイカー通学削減に向けた取組  ・ 本島内の学校 <b>5校</b> に対し、 <b>バスの乗り方教室を実施</b> ・ 琉球大学では <b>駐車場有料化</b> に向けた取組	・ 特に繁忙期には <b>バスや運転手の手配が困難</b> ・ <b>学生を含む大学関係者の合意形成</b> が必要	・ <b>バス事業者との意見交換を踏まえながら効果的な施策展開を検討</b>
施策20 業界団体・企業等に対する実効性のあるTDM施策の検討・推進  ・ <b>バス・モルール半額実証事業において、企業等勤務者のオフピークバス通勤への転換促進</b>	・ 今後の行動変容に繋げていくための <b>新たな施策として次なる展開を検討していく</b> ことが課題	・ <b>半額実証</b> 事業の効果検証結果等も踏まえながら、 <b>新たな施策の展開を検討</b>
施策21 公共交通利用促進に向けた広報、啓発活動の継続的な実施  ・ 小学生の <b>バス图画コンクール実施</b> 、高校生向けに <b>学校周辺バスマップ作成</b> 、わった～バス党による <b>ラジオ番組等</b> を実施	・ 広報活動が <b>路線バスの利用促進等、行動変容</b> に繋がるのかどうか、都度確認が必要	・ アンケートやヒアリング等の事後検証を実施し、 <b>本施策も含めた新たな施策の展開を検討</b>
施策22 デジタル技術等を活用した情報サービスの拡充とデータ連携  ・ 沖縄県における <b>交通デジタルシステム像と交通データの活用のあり方についての検討委員会</b> を実施	・ DX等を活用した <b>情報サービスの拡充とデータ連携</b> のあり方について具体的な検討が課題	・ 引き続き、検討委員会を実施の上、 <b>バス事業者等とあり方について意見交換等</b> を実施
施策23 バス路線確保・維持のための事業推進と新たな仕組みの検討  ・ 生活路線において <b>路線バスを運行し、欠損額が生じている路線バス事業者</b> に対し、 <b>補助金にて支援</b> を行い、路線の確保・維持に努めている	・ <b>運転手不足</b> や <b>バス利用者減少</b> は、 <b>運行回数減少</b> や、 <b>路線の廃止</b> につながるため、 <b>人材確保及びバス利用促進</b> が課題	・ <b>生活交通確保維持協議会</b> にて意見交換 ・ <b>新たな仕組みや財源確保</b> は今後検討
施策24 地域公共交通の運行、担い手の確保  ・ <b>求人広告や資格取得等にかかる費用</b> に対し、 <b>補助金にて支援</b> 。自動車学校の指導教官不足に対する支援を追加。 ・ <b>県外からのバス運転手確保</b> に係る渡航費等の支援を実施	・ <b>バスは各種取組にもかかわらず、募集を満たす採用数に至っていない</b> ことが課題 ・ <b>タクシー乗務員</b> として必要な二種免許取得について、 <b>自動車学校の指導教官不足</b>	・ 引き続き、「 <b>交通事業者運転手等確保支援事業</b> 」により <b>資格取得等を支援</b> ・ <b>県外からの運転手確保等の取組を強化</b>

## 5.2 強力に推進する施策・事業の進捗状況評価（中間）（案）

### 視点1 地域公共交通の未来を育むための根幹的な視点

#### ＜R7取組状況＞

- 骨格軸を形成する公共交通サービスの展開策（基幹バス、モルール、バスタ関連、圏域ネットワーク関連施策）の取組は、関係機関が連携し必要な検討体制の下で着実に推進

#### ＜課題＞

- 地域拠点や交通まちづくりに関する取組は、一部地域にとどまっているため、各市町村が抱える課題等を踏まえた継続的な勉強会、議論等が重要

#### ＜今後の展開＞

- 骨格軸を形成する公共交通サービスの展開策は、引き続き果敢に取り組む各市町村における地域拠点や交通まちづくりに関する施策に関しては、取組が加速することを期待

### 視点2 地域公共交通の再生に欠かせない視点

#### ＜R7取組状況＞

- バス・モルール半額実証事業を実施し、県民等の今後の行動変容に繋がる“きっかけづくり”に大きく寄与
- 業界団体・企業等に対する取組は、沖縄リ・デザイン官民共同宣言等で徐々に展開

#### ＜課題＞

- 今後の行動変容に繋げるための新たな施策展開が課題
- 通勤交通等に対する実効性の高い施策検討（インセンティブ等を含む）が課題

#### ＜今後の展開＞

- 半額実証事業の効果検証を踏まえた新たな施策展開を検討
- 通勤実態の分析等も踏まえながら、実効性のある施策等について、業界団体・企業等とも連携しながら引き続き推進（視点1の施策と連携）

### 視点3 沖縄全体の持続的発展に必要な視点

#### ＜R7取組状況＞

- 観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」の実証設置や、主要観光地との直行バス等を含めた実証事業を展開
- 路線バスへの補助による路線の確保・維持に努めている他、運転手確保のための様々な施策を展開

#### ＜課題＞

- 北谷ゲートウェイと各交通結節点や観光拠点との連携強化、取組周知が課題
- 路線バスの運行回数減少や路線廃止等が継続

#### ＜今後の展開＞

- 各地域の観光拠点、交通結節点等とも連携しながら、観光振興に寄与する施策を引き続き推進
- 生活交通維持確保に引き続き努め、取組の拡充を検討